

令和３年度 施設長会（１０月） 会議資料

（川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会）

— 議 題 —

1 副会長の選任について …資料 1

2 各プロジェクト委員会の進捗状況について …資料 2

3 安全対策担当者養成研修（安全対策体制加算対応）について …資料 3

4 施設長会での情報交換について …別添資料 1

「本日のテーマ：with コロナの施設運営について」※全議題終了後に行います。

5 神奈川県社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会

（1）課題別プロジェクト会議（災害・人材確保・介護報酬改定）について …資料 4、別添資料 2

（2）第 20 回かながわ高齢者福祉研究大会について …資料 5

6 その他

・人材バンク、総合研修センターより …別添資料 3

川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会
副会長の選任について

任期：令和 2 ・ 3 年度（2 ヶ年）

（敬称略）

| 役職 | 新 | 前 |
|-----|---|-----------------|
| 副会長 | | 依田 明子 (金井原苑) |

◎川崎市社会福祉協議会施設部会に委員として参加

◎川崎市社会福祉協議会施設部会民間社会福祉施設連絡協議会に委員として参加

※第 63 回大都市社会福祉施設協議会（川崎市大会）実行委員として参加

※社会福祉法人川崎市社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会運営要領より抜粋

（役員の選任）

第 4 条 会長の選任については、あらかじめ立候補期間を設け、立候補者の中から、施設長会において選任する。選任の方法については、施設長会においてその都度協議のうえ定める。

2 立候補がなかった場合は、施設長会において互選により選任する。

3 副会長は、会長が候補者を選出し、施設長会において選任する。

各プロジェクト委員会の進捗状況について

1 災害プロジェクト委員会

(1) 施設間連携及び情報共有について

「災害時高齢者・障害者施設等情報共有システム（通称：E-WELFISS）を用いた情報伝達訓練に伴う情報交換会」

日 時：令和3年9月2日（木）15時～16時45分 ※14時～情報伝達訓練

方 法：オンライン（zoomを使用）

内 容：①全体会

- ・川崎市健康福祉局総務部危機管理担当より（情報伝達訓練及びシステムについて）

②情報交換（各区ごとグループ分け）

- ・情報伝達訓練を終えて
- ・自施設で災害時に困ること、困っていること
- ・各区ごとに今後取組めることについて 等々

③全体会（振り返り）

- ・各グループより

主 催：社会福祉法人川崎市社会福祉協会 施設部会

老人福祉施設協議会 災害プロジェクト委員会

川崎市老人福祉施設事業協会

参加者：49件（行政及び障害者福祉施設、事務局も含む）

※各グループの災害プロジェクト委員からの報告は別紙参照

【今後について】

行政 - 訓練参加施設からのアンケート回答（1週間程度）

施設 - 各グループで出た意見を集約（1週間程度）

→ 災害プロジェクト委員を中心に取りまとめ、所管課に渡す

→ 施設長会や災害プロジェクト委員会で引き続き情報共有、検討をしていく

※正副会長等会議 10/7

施設長会 10/20

災害プロジェクト委員会 未定

(2) 災害に関する研修会等の開催について

日時：12月 2日（木）14時～ ※多少、前後する可能性あり

方法：オンライン（リアルタイムまたは一定期間動画配信）

講師：長野県社会福祉協議会または長野県高齢者福祉事業協会

テーマ 令和元年台風19号での被災状況及び団体として行った支援について

参 考 災害現場に福祉の力を～長野モデルから被災施設支援のしくみを問い直す～

<http://www.nsyakyo.or.jp/news/2020/12/post-175.php>

第3回実行委員会： 11月24日（水）10時～ 方法：オンライン開催

※同日、応援職員の受け入れマニュアル（ひな形）の案を活用したシミュレーション訓練（生田まほろば）を行います。

「災害時高齢者・障害者施設等情報共有システム（通称：E-WELFISS）を用いた情報伝達訓練に伴う情報交換会」

※各グループで出ていた意見

（１）情報伝達訓練・システムについて

【ログイン】

- ・システムの入り口が URL 直打ちなので入りづらい。災害時は手間取る。
- ・事前に触れていたが、実際は上手く開くことが出来なかった
PC を変更したらログインすることができた。
- ・全て PC でログインしていた。ノート PC でログインした施設もあったが、デスクトップ PC でのログインもあった。発災時を想定すると、持ち運びが可能な端末でのログインが望ましい。
- ・施設内の WIFI 環境が良くない為、最悪個人のスマホでログインか。
- ・13 時前にログインしていたら訓練に参加できなかった。災害時にも起こりうるのか？
- ・指定の時間にログインして 13 時台に操作した内容が反映されていないとのことで、14 時以降に改めて操作指示があった。このエラーの原因について理由を知りたい。
- ・システム自体の入力はスムーズだったが、セキュリティの関係もあり、ログインまでが大変だった。
- ・やはりログインまでが大変であった。
- ・ログイン後、一定時間操作していない状況があった場合、タイムアウトとなり改めてログインしないといけなくなるのか。
- ・複合型施設では 3 つの ID を持っていたが、入る情報に異なる部分があった。
すべてを見てもらえないので、ID を統一してもいいと感じた。
- ・同一 ID でもクロームとエッジであれば同時にログイン出来た。
- ・一つの ID、P A S S で複数台ログインした時にどうなるのか。※時間差も含め
- ・複数の機体から同時にログインできるのか。
- ・複数のデバイスで確認できることが良かった。施設内でも連携しやすい。
- ・PC とタブレットで同時にアクセスしたところ、双方操作を行うことができたが、これは同時アクセス可能な仕様なのか不具合なのか疑問を持った。

【機能】

- ・地図上のポップアップ画面が分かりにくい
- ・トップページの地図縮小が上手く出来なかった。
- ・地図上のアイコンをクリックすれば情報が確認できるといい。
- ・マップのレイヤーに道路の冠水情報や通行止めの情報も入れてほしい。
- ・トップ画面のクルクル回っているアイコンをクリックしても、その内容がポップアップされないの、トップ画面のアイコンから関連情報に飛ぶようにしてもらいたい。
- ・地図と近隣のランドマークや実際の施設の状況を示すアイコンにズレがあった。
- ・トップ画面が見切れて全体を見ることができず、ズームの設定を縮小する必要があった。
- ・地図上のポップアップで『NEW』が多く見づらかった。知らない情報を、どのように活用するものか戸惑いを感じ、区内に絞る等絞り込み機能を使うことを理解できた。
- ・被害編集の画面で、タイトルのところに最初から文章が入力されていて、そこに発生あり等記載されているものを、修正せずに（みどりの丘は、被災無し担当施設）発信してしまった。
- ・重複する操作が多い、例えばトップ画面の被害状況地図では災害情報が出ないが被害情報管理機能に移動してから、右下の被害情報マップからは災害情報が現れる。
トップ画面の地図が見られるようにすればもっと使いやすくなるのではないだろうか。
- ・連絡機能が付いているが連絡情報と被災状況画面にも同じような機能があるが、統一で出来ないだろうか。

- ・連絡機能について、未読・既読について判別や対応がしづらい。
- ・「被害」と「連絡」を別々に入力しないといけない。「被害」に入力したら「連絡」とリンクし、情報が飛べば効率的だと感じた。
- ・未読、既読が分かりづらかった
- ・連絡した内容について、確認できているか不安。既読・未読が判別しづらい
- ・入力項目が多く感じました。1 クリック・2 クリックで済むものを想像していました
- ・訓練中、3 つある情報（被害・連絡・施設情報）のどれを見ていけばいいのか迷った。
- ・連絡機能の中に、関連 ID に被害情報が紐づけられるとされていたが、実際は紐づけできなかったのか確認できなかった。
- ・最新情報はポップアップされるといい。
- ・連絡画面がチャットのように次々とアップされ、必要な情報を探すのが大変である。近隣との情報共有という視点においては、重要な案件は常に上位に来るなど確認しやすい設定をしてもらいたい。
- ・被害情報を入力している時に連絡、通知に気づかない。
- ・被害状況・連絡・最新状況がうまく連動していない。
- ・施設編集画面に関して、縦スクロールはできるが横への画面移動ができず、入力に戸惑った。
- ・他の施設情報を書き換えることが出来る
- ・他の施設の情報をいじれてしまう。
- ・他施設の情報まで更新出来てしまった。
- ・連絡を見落としてしまうこともあるので、メールに連動等があると見落とす確率は少なるかもしれない。
- ・画面が煩雑だったので明瞭簡潔にしてほしい。
- ・更新画面から入るチャット画面とタブから入るチャット画面は一見同様に見えたが、リンクしていなかったので混乱した。
- ・連絡機能の宛先一覧の表示が多い、表示を絞れないか
- ・アドレス機能のツリーが余りにも操作しづらい為、検索機能、小グループで見られるようにしてほしい。
- ・連絡機能が充実しているようで SNS のイメージに思いました
- ・システムのビジュアルはとても良かった分、内容にも期待しマニュアルと動画にて準備した
- ・行政からの情報をもう少し頂くイメージで考えていた

【操作】

- ・操作性については、マニュアル等を確認せずに対応して戸惑ってしまうことがあった
- ・最初は戸惑ったが、触っていくと難しくはなかった。
- ・施設長、事務職、生活相談員が操作した。
- ・操作は事務職員、PC 使用
- ・操作には練習が必要、災害時の操作担当者は考え中、PC 使用
- ・初めての操作であったが慣れは必要。事務職員、PC 使用
- ・初めての操作と言う事もあり、操作に戸惑いがあった。
- ・施設長が中心となり複数の職員で入力した。
- ・相談員、事務にて入力。
- ・本日の訓練については、施設長等の管理職員や防火管理者が行っていた。
- ・実際に操作してみて不安を感じるころは無かった。
- ・マニュアルを確認しながら対応し、今後慣れていくことが必要と感じました。
- ・事前に動画を見て準備していたが、戸惑う場面もあった
- ・慣れればもっと使いやすくなると思う
- ・今回の操作者。ただ、災害時に出勤しているとは限らないので事務所勤務の職員で操作方法を共有しておく必要がある。
- ・職員が限定されていると不在時に支障をきたす為、事務所職員を中心として複数名が操作できる様にしておく事が課題。

- ・夜間どうするかは課題。
- ・今後は事務所 PC の入力だけではなく、タブレット端末を有効活用したい
- ・夜間帯は事務職員不在で夜勤職員のみになってしまうので、施設内でどう使うかは確認していきたい
- ・夜間帯は事務所 PC を金庫にしまっており、どうシステムを活用するのかを施設内で考えなければならない。
- ・管理職員だけでなく相談員や事務職員等操作可能な職員を増やすことが必要と考えられるという意見がある一方、確実な情報伝達のために担当者を選任して操作することについての意見があった。
- ・実際の災害時には管理者だけではなく、夜勤対応の職員も操作できるように
- ・使い慣れるまでは、戸惑いあり、職員に行きわたるまでは時間が掛かりそう。
- ・何人か操作する人が必要で、今後何回か訓練が必要。
- ・今回はマニュアルを見ながら入力、施設長や管理職だけではなく、施設内の防災委員会にも操作できるようにしていきたい。
- ・全員 PC。災害時は浸水被害にあう可能性がある。スマホやタブレットでの操作も視野に入れないといけない。
- ・今回はパソコンを使用した方がタブレットを使用した方が良いのではないかと、理由としては常時パソコンを開いている事はない、パソコンが置いてある部屋に常に職員がいない停電になった時、タブレット端末は持ち運び及び効率が良い。
- ・操作については、市からのビデオ説明を見ていたのでスムーズに出来た。ノート PC 利用
- ・操作については、市からのビデオ説明を見ていたのでスムーズに出来た。
システムについては、情報の共有に有効。PC を使用し災害担当が操作。
- ・本日の訓練については、どの施設も PC を使用していた。施設機能上、24 時間体制での対応を必要とされるため、タブレットやスマートフォン等の簡易に確認ができる機器の導入も必要との意見があった。
- ・災害時を想定して、やはり PC だけではなく機動性がある端末で操作出来ると良いと思う。

【その他】

- ・システム内容の印象は良く、災害時に活用できると感じました。
- ・連絡手段が無線の時に比べたら情報が見られて分かりやすい。
- ・ID、パスワードをもっとオープンにして、色々なところで確認できるようにしてほしい。
リソースで変更されることだと思いますが・・・
- ・災害アプリみたいのを、作れば誰でも直ぐに見られるのではないかと。
- ・全職員へ情報伝達するシステムを導入しているが、そのシステムで E-WELFISS の情報をリンクさせることで各職員が施設状況の確認をすることができないか。
- ・E-WELFISS へ施設の職員が各自ログインできるようにすることが可能であった場合、管理 ID と閲覧専用 ID という形で ID を配布してもらえないか。
- ・外部にいる職員が自施設の被害状況を確認、閲覧できるとありがたい。
- ・E-WELFISS で施設間での情報共有に使用出来ないか（連絡機能を使用し同法人内で、コロナ情報のやりとりなど）
- ・E-WELFISS でボランティア情報を共有出来ないか（施設側でボランティア受け入れについて等）
- ・今後はこのシステムが当たり前のツールとして使用できると区内及び市内施設との連携が出来るのではないかと。
- ・災害時はずっとシステムにつなげておかないといけないのか？
- ・災害時は被災状況が時間の経過とともに変わっていく。システムにログインするタイミングを決めておいてもいいのでは？災害レベル〇とか。
- ・どのタイミングでシステムを使用するか、施設により異なると思われる。基準的な内容が必要になると思う。
- ・今の運用状況では、施設内でシステムを操作、確認する職員を付けないといけなくなるのか、外部とのその他の連絡もあるので、施設内で要確認

- ・常に E-WELFISS を立ち上げているわけではなく、実際の災害時においても E-WELFISS を一番に立ち上げるという意識は持ちにくいので、システムを強制的に立ち上げるような仕組みを検討してもらいたい。
- ・日頃から情報共有の下地を作っていくことが大切。
- ・訓練はシナリオがあり時系列で流れていったので対応できたが、災害時はどうか。繰り返し訓練が必要。
- ・防災無線訓練の例だと、訓練上報告が失敗して機能していなかった場合でも再訓練は行わない為、習熟度は低いまま。そうならない様に、同システムの訓練を定期的に行いシステムに慣れる事が必要。
- ・同システムでどこまでできるか。行政への報告だけに留まらず、例えば施設間のダイレクトメッセージや、被害が無く余力がある施設に対して応援要請できる様な機能があればより良い。
- ・このシステムに触れて、期待したほど横のつながりが取りにくいイメージ

(2) 災害を想定して自施設で困ること・相互連携について

【相互連携】

- ・遠くの親戚より近くの他人という言葉もあるとおり、今回の新しいシステムを活用しながら区内で物資等の協力も出来ればと思う。
- ・実際の災害時には様々な状況等があると思うが、「困った時にはお互い様」という精神のもと、施設間で協力が出来れば良いと思います。
- ・法人内に別の施設はあるが距離が離れているので、やはり近隣施設との協力は必要だと思う。
- ・他施設の担当者同士、このような形で話せることは大変ありがたい。
- ・系列が遠い為、単独施設となっている。地域とのつながりが課題
- ・弊施設は単独施設になる為、地域の連携等が大切になるのに、今まで対応が出来ていない
- ・情報共有や情報交換は災害システムでできそう。
- ・物資や人員の応援依頼は、近隣施設に言いづらい。
- ・この2年間、コロナにより近隣施設との関係が疎遠になっており、気軽に相談や情報共有できない環境になっている。定期的に関りを持つ機会を作り関係性を構築する必要がある。
- ・施設内でコロナ感染が起きた際、法人内での支援体制を組んだが、遠くにある系列施設より、法人外でも近くの施設との協力体制があればと感じることがあった。
- ・他施設への応援について、今のこのコロナで職員応援というのは更に声掛けを難しくしている状況だと思う。
- ・今年、地域の自治会と防災協定を結んだところ、今後更にブラッシュアップしていく予定
- ・災害が起きてからではなく、事前に市内老人福祉施設で協定を結び、災害時には協力できる体制づくりや協定が必要なのではないか。
- ・実際の災害時での協力体制を考えた場合、区ごとではなく、幹線道路等でのアクセスを勘案したグルーピングが現実的ではないか。
- ・横須賀線と南武線の線路に挟まれることで、遮断機が降りたまま稼働しなくなる等の状況になった際に、人や物の動きが止められてしまわないか心配がある。
- ・災害時は自施設で手いっぱいになるのではないかな？

【備蓄倉庫】

- ・備蓄倉庫が1階にある。水害時を考え上階に移動させたいがスペースがない。屋上に倉庫も消防上設置できない。行政などヨコの連携がとれないものか…。
- ・備蓄倉庫のスペースは限られているので、フロアごとに水等を備蓄している。
- ・施設が土砂災害警戒区域にあり、1階に事務所や備蓄倉庫があるので、1階部分に被害が出てしまうのではないかと心配している。
- ・備蓄倉庫に限りがあるため、区内で共通備蓄倉庫があると良いのではないかな。
- ・備蓄品をまとめて置くところが施設内にないので、各フロアーに置いたりし工夫をしている。
- ・特養、養護、ケアハウスが一体になっているため、他施設に比べると備蓄倉庫の問題やスパー

ス、物資等は恵まれていると思う。

【備蓄食】

- ・利用者 3 日分のみ備蓄。
- ・職員の分も用意している/1 日 2 食。
- ・期限切れの飲料水も生活用水としてとってある。
- ・貯水槽の水も使用すると想定している。
- ・厨房が機能しなくなった場合の非常食について、施設によって備蓄可能な量が異なっており、救援物資が届くまで維持できるか心配と課題がある。
- ・近隣のコンビニ等と連携を図り、物資の提供を受けられる体制を整えることができないだろうか。

【自家発電】

- ・発電機が蓄電のみ、エレベーターは動かせる。ポータブル発電機が必要か。
- ・ポータブルの投光器を新しく購入し、夜停電があっても対応、出来るようにした
- ・自家発電の機能が施設運営を十分に賄える状況にない。社用車に電気自動車を採用して自動車からの電力供給を視野に入れているが容量は十分とは言えない。
また、自家発電機の燃料が灯油等になっている場合、日ごろの管理が大変である。容量が大きい自家発電機を導入した場合、導入時の経費だけでなくメンテナンス経費も高く継続していくには費用的な課題がある。
- ・災害時、電気が止まるのが困ってしまう。
- ・プリウスの様な蓄電付きの車等を使う日があるかも。
- ・自家発電機について、軽油は防犯上の理由で保管、補充が難しいとの事で、プロパンガスを燃料とした物を検討している。
- ・施設の自家発が老朽化している為、買い替えが課題となっている
- ・電気関係が心配で、災害時の EV 等高圧のものについての対応が課題
- ・発電機等設備関係の準備は今後の課題です

【緊急連絡網】

- ・電話連絡を想定している。
- ・震災でも LINE は生きていたと聞く。役職者はグループ LINE を組んでいる。
- ・職員参集に関しては、ラインワークスで全職員へ一斉メールで対応している。
- ・職員の参集については、2 か月に一度患部職員についてラインワークスを使用して連絡訓練を講じています。全体については今後の課題です。
- ・緊急連絡システム（有料）を使っている。法人単位や施設単位で一斉メールを送った実績がある。非常に便利。
- ・災害時の職員安否確認のツールとして、伝言確認ダイヤルを使用する様にした。
- ・職員の安否確認については、セコムメールシステムを活用している。一斉送信ができ、万が一携帯のキャリアメールが使用できなくても使用できることが安心

【二次避難所】

- ・地域の一時避難所や一次避難所を確認した際、ハザードマップ上では水没地域に指定されていた。これら一時や一次避難所が避難できない前提となった場合、施設の体制を整える前に二次避難所の開設を即求められることになるではないか。
- ・通常のサービスを提供しながら、二次避難所として受け入れを行った場合、避難所機能をどの程度求められて、どこまで機能を維持できるのかイメージができない。
- ・二次避難所を想定した際の段ボールベットが不足している。

- ・二次避難所訓練については、昨年川崎市の危機管理室の方を招いて対応しましたが、現状そのスペースがコロナ物品により半分ほどしか使用できない状況。

【BCP】

- ・各施設でのBCP策定や実施状況を教えてほしい。
- ・BCPを作成しているが、実際に稼働させて見直しをする必要があると考えている。

【その他】

- ・実際に水害を経験したが、水が引くまでの数日間の対応について等、公用車の移動は決めてあり移動訓練実施済。町会と防災協定を締結し災害時だけでなく日頃より訓練を行っている。
 - ・災害時においての人的資源が心配。
 - ・職員参集が課題
 - ・水害時に1階に電話交換機等の電気設備が集中している環境
 - ・垂直避難の際にもエレベーターが止まってしまった場合には階段しかなく、また避難所に指定されている小学校も高台にあるため、避難方法が心配である。
 - ・傾斜地にあり、排水が出来なくなってしまう可能性がある。
 - ・立地的に水害関係には強いと思うが、強風や停電には弱い施設だと思う。
停電した際にはエレベーターによる上階避難や食事運搬等も出来なくなってしまう。
 - ・携帯型ポータブルトイレを購入した。
 - ・近隣施設への連絡対応として、ドローンを使用しても良いのでは。
 - ・災害に必要なのは、『人・物・費用・情報』これらがうまく連携していくことが大切となってくる
 - ・人に関しては、スタッフ参集だけでなく地域協定を結んでいるそのつながりが大切。
コロナ禍で地域との体系的なものが薄れていることは課題。
 - ・物は備蓄、事前の準備が必要。費用は後付け、法人としては丘の上にあるので水害には安心だが、昨年屋根が飛ぶなどあった台風に注意している。
 - ・情報に関して、今回のE-WELFISSの連絡機能に今後改善を期待
 - ・井水がある為生活インフラは整っている
 - ・施設内の老朽化により雨漏りがあり、大規模修繕を検討
 - ・鉄道情報など、もっと行政からの情報があれば助かる
 - ・ハザードマップ上、水害の心配はない場所になっている
 - ・井水を使用しているので、飲用はできないが生活用水として使用できるため安心
 - ・多摩川の里、ヴィラージュ、生田まほろばは多摩川沿いの為水害リスクが高い。
内2施設については、1階部分や地下に自家発電機や備蓄食料等が集中している為、水害があった場合に、インフラが機能しなくなるリスクが高い。
屋上に自家発電機を移す計画もあるが、予算が限られている為、対応に苦慮している。
 - ・金井原苑さんで使用されている職員連絡ツールについて、費用的な面を可能であれば教えて頂きたい
- ⇒ セコムの安否確認メールですね。アカウント一人30円となり、内容に関してはグラフ形式でも表示してくれ使いやすく把握しやすい。コロナ禍のためPCR検査結果等も、このツールを使用して全職員へ伝達している。コスト的なものについては数年前に実施している為、必要でしたら後日お伝えします。おすすめです。

※各区の意見については、次頁からご参照ください。

※各区で出ていた意見（川崎市）

内容②「初めての情報伝達訓練について」

Q.誰が操作しましたか？

＝施設長、事務職、生活相談員

Q.災害時は誰が操作する予定ですか？

＝今回の操作者。ただ、災害時に出勤しているとは限らないので事務所勤務の職員で操作方法を共有しておく必要がある。

Q.端末は PC で操作しましたか？タブレットですか？

＝全員 PC。災害時は浸水被害にあう可能性がある。スマホやタブレットでの操作も視野に入れな
いといけない。

Q.システムについての意見

- ・最初は戸惑ったが、触っていくと難しくはなかった。
- ・連絡手段が無線の時に比べたら情報が見られて分かりやすい。
- ・訓練はシナリオがあり時系列で流れていったので対応できたが、災害時はどうか。
繰り返し訓練が必要。
- ・システムの入り口が URL 直打ちなので入りづらい。災害時は手間取る。
- ・災害時は被災状況が時間の経過とともに変わっていく。システムにログインするタイミングを
決めておいてもいいのでは？災害レベル〇とか。
- ・13 時前にログインしていたら訓練に参加できなかった。災害時にも起こりうるのか？
- ・災害時はずっとシステムにつなげておかないといけないのか？
- ・「被害」と「連絡」を別々に入力しないとイケない。「被害」に入力したら「連絡」とリンクし、
情報が飛べば効率的だと感じた。
- ・訓練中、3 つある情報（被害・連絡・施設情報）のどれを見ていけばいいのか迷った。
- ・最新情報はポップアップされるといい。
- ・地図上のアイコンをクリックすれば情報が確認できるといい。
- ・複合型施設では 3 つの ID を持っていたが、入る情報に異なる部分があった。
すべてを見てもらえないので、ID を統一してもいいと感じた。
- ・同一 ID でもクロームとエッジであれば同時にログイン出来た。

内容③（「災害を想定して自施設で困ること、困っていることは？

災害時だけではなく、日頃からお互いにできることは？」）

○備蓄倉庫について

- ・備蓄倉庫が 1 階にある。水害時を考え上階に移動させたいがスペースがない。
屋上に倉庫も消防上設置できない。行政などヨコの連携がとれないものか…。

○備蓄品（非常食・水）について情報共有

- ・利用者 3 日分のみ備蓄。
- ・職員の分も用意している/1 日 2 食。
- ・期限切れの飲料水も生活用水としてとってある。
- ・貯水槽の水も使用すると想定している。

○緊急連絡網は整備されている？

- ・震災でも LINE は生きていたと聞く。役職者はグループ LINE を組んでいる。
- ・電話連絡を想定している。
- ・緊急連絡システム（有料）を使っている。法人単位や施設単位で一斉メールを送った実績がある。
非常に便利。

○災害時に近隣施設でお互いにできることは？

- ・情報共有や情報交換は災害システムでできそう。
- ・災害時は自施設で手いっぱいになるのではないかな？
- ・物資や人員の応援依頼は、近隣施設に言いづらい。

※各区で出ていた意見（幸区）

1) 情報伝達訓練での気づき

① 訓練時の操作担当者

本日の訓練については、施設長等の管理職員や防火管理者が行っていた。

② 災害時の操作担当者

管理職員だけでなく相談員や事務職員等操作可能な職員を増やすことが必要と考えられるという意見がある一方、確実な情報伝達のために担当者を選任して操作することについての意見があった。

③ 使用端末

本日の訓練については、どの施設も PC を使用していた。

施設機能上、24 時間体制での対応を必要とされるため、タブレットやスマートフォン等の簡易に確認ができる機器の導入も必要との意見があった。

④ その他

- ・複数の機体から同時にログインできるのか。
- ・全職員へ情報伝達するシステムを導入しているが、そのシステムで E-WELFISS の情報をリンクさせることで各職員が施設状況の確認をすることができないか。
- ・E-WELFISS へ施設の職員が各自ログインできるようにすることが可能であった場合、管理 ID と閲覧専用 ID という形で ID を配布してもらえないか。
- ・PC とタブレットで同時にアクセスしたところ、双方操作を行うことができたが、これは同時アクセス可能な仕様なのか不具合なのか疑問を持った。
- ・連絡機能の中に、関連 ID に被害情報が紐づけられるとされていたが、実際は紐づけできなかったのか確認できなかった。
- ・トップ画面のクルクル回っているアイコンをクリックしても、その内容がポップアップされないの、トップ画面のアイコンから関連情報に飛ぶようにしてもらいたい。
- ・地図と近隣のランドマークや実際の施設の状況を示すアイコンにズレがあった。
- ・トップ画面が見切れて全体を見ることができず、ズームの設定を縮小する必要があった。
- ・施設編集画面に関して、縦スクロールはできるが横への画面移動ができず、入力に戸惑った。
- ・指定の時間にログインして 13 時台に操作した内容が反映されていないとのことで、14 時以降に改めて操作指示があった。このエラーの原因について理由を知りたい。
- ・ログイン後、一定時間操作していない状況があった場合、タイムアウトとなり改めてログインしないといけなくなるのか。
- ・常に E-WELFISS を立ち上げているわけではなく、実際の災害時においても E-WELFISS を一番に立ち上げるという意識は持ちにくい、システムを強制的に立ち上げるような仕組みを検討してもらいたい。
- ・連絡画面がチャットのように次々とアップされ、必要な情報を探すのが大変である。近隣との情報共有という視点においては、重要な案件は常に上位に来るなど確認しやすい設定をしてもらいたい。

2) 災害を想定して困る事

- ・実際の災害時での協力体制を考えた場合、区ごとではなく、幹線道路等でのアクセスを勘案したグルーピングが現実的ではないか。
- ・厨房が機能しなくなった場合の非常食について、施設によって備蓄可能な量が異なっており、救援物資が届くまで維持できるか心配と課題がある。
- ・近隣のコンビニ等と連携を図り、物資の提供を受けられる体制を整えることができないだろうか。

- 横須賀線と南武線の線路に挟まれることで、遮断機が降りたまま稼働しなくなる等の状況になった際に、人や物の動きが止められてしまわないか心配がある。
- 地域の一時避難所や一次避難所を確認した際、ハザードマップ上では水没地域に指定されていた。これら一時や一次避難所が避難できない前提となった場合、施設の体制を整える前に二次避難所の開設を即求められることになるではないか。
- 通常のサービスを提供しながら、二次避難所として受け入れを行った場合、避難所機能をどの程度求められて、どこまで機能を維持できるのかイメージができない。
- DCP を作成しているが、実際に稼働させて見直しをする必要があると考えている。
- この2年間、コロナにより近隣施設との関係が疎遠になっており、気軽に相談や情報共有できない環境になっている。定期的に関りを持つ機会を作り関係性を構築する必要がある。
- 施設内でコロナ感染が起きた際、法人内での支援体制を組んだが、遠くにある系列施設より、法人外でも近くの施設との協力体制があればと感じることがあった。
- 自家発電の機能が施設運営を十分に賄える状況にない。社用車に電気自動車を採用して自動車からの電力供給を視野に入れているが容量は十分とは言えない。
また、自家発電機の燃料が灯油等になっている場合、日ごろの管理が大変である。容量が大きい自家発電機を導入した場合、導入時の経費だけでなくメンテナンス経費も高く継続していくには費用的な課題がある。

※各区で出ていた意見（中原区）

- 操作には練習が必要、災害時の操作担当者は考え中、P C使用
- E-WELFISS で施設間での情報共有に使用出来ないか
（連絡機能を使用し同法人内で、コロナ情報のやりとりなど）
- 各施設でのB C P策定や実施状況を教えてほしい。
- 操作については、市からのビデオ説明を見ていたのでスムーズに出来た。
- ノートP C利用
- 施設長不在にて回答なし
- 連絡機能の宛先一覧の表示が多い、表示を絞れないか
- 操作については、市からのビデオ説明を見ていたのでスムーズに出来た。
システムについては、情報の共有に有効。P Cを使用し災害担当が操作。
- 実際に水害を経験したが、水が引くまでの数日間の対応について等、公用車の移動は決めてあり
移動訓練実施済。
- 町会と防災協定を締結し災害時だけでなく日頃より訓練を行っている。
- E-WELFISS でボランティア情報を共有出来ないか
（施設側でボランティア受け入れについて等）
- マップのレイヤーに道路の冠水情報や通行止めの情報も入れてほしい。
- 操作は事務職員
- P C使用
- 災害時においての人的資源が心配。
- 他の施設情報を書き換えることが出来る
- 初めての操作であったが慣れは必要。
- 事務職員
- P C使用
- 水害時に1階に電話交換機等の電気設備が集中している環境

※各区で出ていた意見（高津区）

○内 容「情報伝達訓練及びシステム等について」

- ・ 今後は事務所 PC の入力だけではなく、タブレット端末を有効活用したい
- ・ 夜間帯は事務職員不在で夜勤職員のみになってしまうので、施設内でどう使うかは確認していきたい
- ・ 今後はこのシステムが当たり前のツールとして使用できると区内及び市内施設との連携が出来るのではないかと。
- ・ 災害時を想定して、やはり PC だけではなく機動性がある端末で操作出来ると良いと思う。
- ・ 被害情報を入力している時に連絡、通知に気づかない。
- ・ 今の運用状況では、施設内でシステムを操作、確認する職員を付けないといけなくなるのか、外部とのその他の連絡もあるので、施設内で要確認
- ・ 今回はマニュアルを見ながら入力、施設長や管理職だけではなく、施設内の防災委員会にも操作できるようにしていきたい。
- ・ システム自体の入力はスムーズだったが、セキュリティの関係もあり、ログインまでが大変だった。
- ・ トップページでの地図縮小が上手く出来なかった。
- ・ 実際の災害時には管理者だけではなく、夜勤対応の職員も操作できるように
- ・ やはりログインまでが大変であった。
- ・ 一つの ID、PASSWORD で複数台ログインした時にどうなるのか。※時間差も含め
- ・ 夜間帯は事務所 PC を金庫にしまっており、どうシステムを活用するのかを施設内で考えなければならない。
- ・ 他施設の情報まで更新出来てしまった。
- ・ 外部にいる職員が自施設の被害状況を確認、閲覧できるとありがたい。
- ・ 連絡を見落とししてしまうこともあるので、メールに連動等があると見落とす確率は少なくなるかもしれない。

○内 容「災害を想定して困ること、日頃からお互いにできることは」

- ・ 他施設への応援について、今のこのコロナで職員応援というのは更に声掛けを難しくしている状況だと思う。
- ・ 備蓄倉庫のスペースは限られているので、フロアごとに水等を備蓄している。
- ・ 法人内に別の施設はあるが距離が離れているので、やはり近隣施設との協力は必要だと思う。
- ・ 施設が土砂災害警戒区域にあり、1 階に事務所や備蓄倉庫があるので、1 階部分に被害が出てしまうのではないかと心配している。
- ・ 垂直避難の際にもエレベーターが止まってしまった場合には階段しかなく、また避難所に指定されている小学校も高台にあるため、避難方法が心配である。
- ・ 傾斜地にあり、排水が出来なくなってしまう可能性がある。
- ・ 備蓄倉庫に限りがあるため、区内で共通備蓄倉庫があると良いのではないかと。
- ・ 二次避難所を想定した際の段ボールベットが不足している。
- ・ 特養、養護、ケアハウスが一体になっているため、他施設に比べると備蓄倉庫の問題やスペース、物資等は恵まれていると思う。
- ・ 遠くの親戚より近くの他人という言葉もあるとおり、今回の新しいシステムを活用しながら区内で物資等の協力も出来ればと思う。
- ・ 立地的に水害関係には強いと思うが、強風や停電には弱い施設だと思う。
停電した際にはエレベーターによる上階避難や食事運搬等も出来なくなってしまう。
- ・ 実際の災害時には様々な状況等があると思うが、「困った時にはお互い様」という精神のもと、施設間で協力が出来れば良いと思います。

※各区で出ていた意見（宮前区）

（１）初めての情報伝達訓練はいかがでしたか。誰が操作したのか等について

- 初めての操作と言う事もあり、操作に戸惑いがあった。
- 使い慣れるまでは、戸惑いあり、職員に行きわたるまでは時間が掛かりそう。
- 何人か操作する人が必要で、今後何回か訓練が必要。
- 今回はパソコンを使用したか、タブレットを使用した方が良いのではないかと、理由としては常時パソコンを開いている事はない、パソコンが置いてある部屋に常に職員がいない停電になった時、タブレット端末は持ち運び及び効率が良い。
- 重複する操作が多い、例えばトップ画面の被害状況地図では災害情報が出ないが被害情報管理機能に移動してから、右下の被害情報マップからは災害情報が現れる。トップ画面の地図が見られるようにすればもっと使いやすくなるのではないだろうか。
- 連絡機能が付いているが連絡情報と被災状況画面にも同じような機能があるが、統一で出来ないだろうか。
- 災害アプリみたいのを、作れば誰でも直ぐに見られるのではないかと。
- アドレス機能のツリーが余りにも操作しづらい為、検索機能、小グループで見られるようにしてほしい。
- 他の施設の情報をいじれてしまう。

（２）災害を想定して自施設で困ること、

- 災害時、電気が止まるのが困ってしまう。
- 発電機が蓄電のみ、エレベーターは動かせる。ポータブル発電機が必要か。
- ポータブルの投光器を新しく購入し、夜停電があっても対応、出来るようにした。
- 携帯型ポータブルトイレを購入した。
- 災害時の職員安否確認のツールとして、伝言確認ダイヤルを使用する様にした。
- プリウスの様な蓄電付きの車等を使う日がくるかも。
- 近隣施設への連絡対応として、ドローンを使用しても良いのでは。
- 備蓄品をまとめて置くところが施設内がないので、各フロアーに置いたり工夫をしている。
- 他施設の担当者同士、このような形で話せることは大変ありがたい。

※各区で出ていた意見（多摩区）

設問② 操作職員について

- 施設長が中心となり複数の職員で入力した。
- 相談員、事務にて入力。
- 職員が限定されていると不在時に支障をきたす為、事務所職員を中心として複数名が操作できる様にしておく事が課題。
- 夜間どうするかは課題。

端末について

- 全てPCでログインしていた。ノートPCでログインした施設もあったが、デスクトップPCでのログインもあった。発災時を想定すると、持ち運びが可能な端末でのログインが望ましい。
- 施設内のWIFI環境が良くない為、最悪個人のスマホでログインか。

設問③ E-WELFISSについて

- 画面が煩雑だったので明瞭簡潔にしてほしい。
- 更新画面から入るチャット画面とタブから入るチャット画面は一見同様に見えたが、リンクしていなかったので混乱した。
- 防災無線訓練の例だと、訓練上報告が失敗して機能していなかった場合でも再訓練は行わない為、習熟度は低いまま。そうならない様に、同システムの訓練を定期的に行いシステムに慣れる事が必要。
- 日頃から情報共有の下地を作っていくことが大切。
- 同システムでどこまでできるか。行政への報告だけに留まらず、例えば施設間のダイレクトメッセージや、被害が無く余力がある施設に対して応援要請できる様な機能があればより良い。

その他

- 多摩川の里、ヴィラージュ、生田まほろばは多摩川沿いの為水害リスクが高い。
内2施設については、1階部分や地下に自家発電機や備蓄食料等が集中している為、水害があった場合に、インフラが機能しなくなるリスクが高い。
屋上に自家発電機を移す計画もあるが、予算が限られている為、対応に苦慮している。
- 自家発電機について、軽油は防犯上の理由で保管、補充が難しいとの事で、プロパンガスを燃料とした物を検討している。

※各区で出ていた意見（麻生区）

2 初めての情報訓練について、内容と感想

- ・事前に触れていたが、実際は上手く開くことが出来なかった
- ・PC を変更したらログインすることができた。
- ・マニュアルを確認しながら対応し、今後慣れていくことが必要と感じました。
- ・このシステムに触れて、期待したほど横のつながりが取りにくいイメージ、
- ・地図上のポップアップ画面が分かりにくい
- ・連絡機能について、未読・既読について判別や対応がしづらい。
- ・被害状況・連絡・最新状況がうまく連動していない。
- ・行政からの情報をもう少し頂くイメージで考えていた
- ・連絡機能が充実しているようで SNS のイメージに思いました
- ・システムのビジュアルはとても良かった分、内容にも期待しマニュアルと動画にて準備した
- ・実際に操作してみて不安を感じるころは無かった。
- ・事前に動画を見て準備していたが、戸惑う場面もあった
- ・システム内容の印象は良く、災害時に活用できると感じました。
- ・複数のデバイスで確認できることが良かった。施設内でも連携しやすい。
- ・慣れればもっと使いやすくなると思うので、
- ・どのタイミングでシステムを使用するか、施設により異なるとされる。基準的な内容が必要になると思う。
- ・操作性については、マニュアル等を確認せずに対応して戸惑ってしまうことがあった
- ・未読、既読が分かりやすかった
- ・入力項目が多く感じました。1 クリック・2 クリックで済むものを想像していました
- ・ID,パスワードをもっとオープンにして、色々なところで確認できるようにしてほしい。
リソースで変更されることだと思いますが・・・
- ・地図上のポップアップで『NEW』が多く見づらかった。知らない情報を、どのように活用するものか戸惑いを感じ、区内に絞る等絞り込み機能を使うことを理解できた。
- ・被害編集の画面で、タイトルのところに最初から文章が入力されていて、そこに発生ありと記載されているものを、修正せずに（みどりの丘は、被災無し担当施設）発信してしまった。
- ・連絡した内容について、確認できているか不安。既読・未読が判別しづらい

3 災害時において自施設の課題、その他

- ・弊施設は単独施設になる為、地域の連携等が大切になるのに、今まで対応が出来ていない
- ・職員の参集については、2 か月に一度患部職員についてラインワークスを使用して連絡訓練を講じています。全体については今後の課題です。
- ・二次避難所訓練については、昨年川崎市の危機管理室の方を招いて対応しましたが、現状そのペースがコロナ物品により半分ほどしか使用できない状況。
- ・今年、地域の自治会と防災協定を結んだところ、今後更にブラッシュアップしていく予定
- ・発電機等設備関係の準備は今後の課題です

- ・ハザードマップ上、水害の心配はない場所になっている
- ・井水を使用しているので、飲用はできないが生活用水として使用できるため安心
- ・電気関係が心配で、災害時の EV 等高圧のものについての対応が課題
- ・職員の安否確認については、セコムメールシステムを活用している。一斉送信ができ、万が一携帯のキャリアメールが使用できなくても使用できることが安心
- ・系列が遠い為、単独施設となっている。地域とのつながりが課題
- ・施設の自家発電が老朽化している為、買い替えが課題となっている
- ・職員参集に関しては、ラインワークスで全職員へ一斉メールで対応している。
- ・鉄道情報など、もっと行政からの情報があれば助かる
- ・施設内の老朽化により雨漏りがあり、大規模修繕を検討
- ・職員参集が課題
- ・災害に必要なのは、『人・物・費用・情報』これらがうまく連携していくことが大切となってくる
- ・人に関しては、スタッフ参集だけでなく地域協定を結んでいるそのつながりが大切。コロナ禍で地域との体系的なものが薄れていることは課題。
- ・物は備蓄、事前の準備が必要。費用は後付け、法人としては丘の上にあるので水害には安心だが、昨年屋根が飛ぶなどあった台風に注意している。
- ・井水がある為生活インフラは整っている
- ・情報に関して、今回の E-WELFISS の連絡機能に今後改善を期待

4 少し時間があまり各施設からの質問

- ・金井原苑さんで使用されている職員連絡ツールについて、費用的な面を可能であれば教えて頂きたい

⇒ セコムの安否確認メールですね。アカウント一人 30 円となり、内容に関してはグラフ形式でも表示してくれ使いやすく把握しやすい。コロナ禍のため PCR 検査結果等も、このツールを使用して全職員へ伝達している。コスト的なものについては数年前に実施している為、必要でしたら後日お伝えします。おすすめです。

2 人材プロジェクト委員会

(1) 委員会等実施状況

第3回 / 9月14日(火) 10時～(オンラインとオフライン)

(2) 協議概要

①市立川崎高校定時制1年生の企業・施設訪問について(報告)

<打ち合わせ>

日時: 8月18日(水) 14時～(ZOOM)

出席: 新保職員、桑原係長(経済労働局) 古敷谷委員長(大師の里)、岩壁副委員長(等々力)

<募集について>

目的: 卒業後の就業に向け、1年生の内から「働くこと」について興味を持ってもらうことを目的に企業訪問を実施している。

日時: 11月19日(金) 10～17時の間

内容: 施設内見学、施設や業務についての説明、若手職員からのお話、質疑応答

- ・福祉施設以外に、一般企業にも依頼されている。福祉施設は老人以外にも依頼済み。
- ・1グループあたり最大10名、2時間程度で想定しているが、受け入れ人数や時間等臨機応変に対応できるため、可能な範囲でのご協力いただく形をお願いしたい。
- ・午前、午後に1グループずつでも、午前か午後どちらかだけでも可能。
- ・受け入れにあたり条件がある場合(事前に2週間検温等)、指示していただければ生徒に指導する。

→8月25日老施協施設長会で説明し、メールで各施設へ案内し、老人福祉施設4施設、障害者福祉施設3施設に応募いただいた。

→9月13日経済労働局より連絡があり、想定以上の数の各施設様より受け入れ可能とご回答いただき、生徒数(68名)よりも多くの受け入れ枠を設けることができたが、これより多くの枠を設けると各企業・施設へ生徒を振り分けることができない可能性があるため、締め切りを22日としていたが、前倒しして9月13日で締め切らせていただいた。

②ハローワーク「福祉の仕事」説明会

・ハローワーク川崎

会場：ハローワーク川崎 6階大会議室

日時：10月22日（金）13時30分～15時

環境：ZOOMを使用

参加法人：寿楽園、和楽会

参加施設：しゃんぐりら、生田広場

・ハローワーク川崎北（報告）

会場：エポック中原 6階研修室

日時：10月11日（月）13時30分～15時

環境：ZOOMを使用

参加法人：美生会、三篠会、子の神福祉会

参加施設：虹の里

<説明会の内容>

①川崎市社会福祉協議会（老施協）について、福祉の仕事・資格の案内（5分）

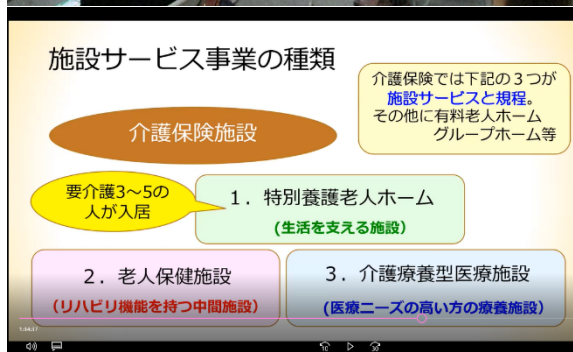
②川崎市介護人材マッチング事業について（10分） ※株式会社シグマスタッフ

③施設でのケアの実際（25分） ※神田施設長（生田広場）

④福祉の現場からの声（35分）

→参加法人施設にZOOMで参加してもらい、会場から投げかける質問にご回答いただいた。

⑤市内社会福祉施設と参加施設の求人情報の提供（5分） ※人材バンク



③高校（キャリア教育担当）へのアプローチ

訪問先：川崎市総合教育センター（高津区溝口 6-9-3）

教育政策室 安齋陽子担当課長、指導主事 青木洋俊氏、佐藤一輝氏

日 時：10月21日（木）10時～

出席者：荒川施設長（ひらまの里）、平山施設長（鷲ヶ峯）、山下所長（人材バンク）

④外国人介護人材説明会または情報交換会

今後各施設へアンケート調査を行い、アンケート結果を基に説明会または情報交換会の実施を検討する。

◎次回：第4回実行委員会 11月17日（水）14時～ オンライン

安全対策担当者養成研修（安全対策体制加算対応）

1 申込状況

施設：47施設

人数：170名

2 今後について

9/30（木）午後 プログラム②撮影

10/ 6（水）午後 プログラム①撮影

10/ 7（木）午前 プログラム③撮影

10/11（月）～10/15（金）編集作業

※高齢者事業推進課に編集したものを送付（確認）

10/15（金）申込締切

10/18（月）～10/25（月）オンライン（オンデマンド配信）開催

3 連絡事項

- 1 受講後、アンケートを記入し、順次修了証を発行いたします。
- 2 加算取得にあたり、施設において発行する安全対策体制に係る担当者の委嘱状も必要になります。
- 3 加算取得の申請が10月末までに間に合わない場合には、研修申込書で対応できる旨がQ&Aに記載されております。

安全対策担当者養成研修 (安全対策体制加算対応)



【研修資料】 ※以下より必要に応じてダウンロード
こちらをクリックして資料をダウンロードしてください

【研修内容】

プログラム① …40分

『令和3年度介護報酬改定における安全対策体制加算等について』

講師：コンパッソ税理士法人 横浜青葉事務所

業務部 本部長 畠山安定 氏

URL : <https://youtu.be/IyL7J0F0xKs>



プログラム② …60分

『介護事故の実態とリスクマネジメント』

講師：小長井・千木良・渡邊法律事務所

弁護士 千木良正 氏

URL : <https://youtu.be/Qd8g6Bqmn3E>



プログラム③ …90分

『介護事故が発生した場合の対応や紛争予防策について
身体拘束の適正化と虐待防止』

講師：介護・福祉系法律事務所おかげさま

弁護士 外岡潤 氏

URL : (前半) <https://youtu.be/8hBvbeF7szI>

URL : (後半) <https://youtu.be/fmddu4z5tIQ>



(前半)



(後半)

【連絡事項】

- 1 受講後、アンケートを記入し、順次修了証を発行いたします
- 2 加算取得にあたり、施設において発行する安全対策担当者の委嘱状も必要になります。
- 3 加算取得の申請が10月末までに間に合わない場合には、研修申込書で対応できる旨がQ&Aに記載されております。

主催：社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会
共催：川崎市老人福祉施設事業協会



川崎市社協 福祉部 施設団体事業推進課 あて
FAX：044-739-8737

【受講後、下記回答フォームまたはFAXによりご提出ください】

安全対策担当者養成研修 アンケート

本研修は、令和3年度介護報酬改定で新設された安全対策体制加算において担当者が受講することが求められている「外部の研修」に該当するものです。
受講習熟度の確認のため、アンケートのご提出をお願いします。

施設名

【回答フォーム】

<https://forms.gle/vKog6YDJ9Zu6Q6cX7>

受講者氏名・生年月日

【キーワード①】

【キーワード②】

【キーワード③】



| |
|--|
| 1. 今回の研修会はいかがでしたか？（□にチェックをお願いします） |
| ①理解度：□とても理解できた □理解できた □普通 □やや理解できない □理解できない |
| ②満足度：□大変満足した □満足した □普通 □やや不満足 □不満足 |
| 2-1. プログラム①についてのご意見及びご感想をご記入ください。 |
| |
| 2-2. プログラム②についてのご意見及びご感想をご記入ください。 |
| |
| 2-3. プログラム③についてのご意見及びご感想をご記入ください。 |
| |
| 3. 今回は施設のニーズが高い研修会を急遽開催させていただきました。 次回以降の研修会で取り上げたいテーマがございましたら、 希望されるテーマ及び理由、施設での現状等をご記入ください。 |
| |

ご協力ありがとうございました。

【送付先・問合せ先】

川崎市社会福祉協議会 福祉部施設・団体事業推進課 老人福祉施設協議会担当：金子
電話：044-739-8717 FAX：044-739-8737

神奈川県社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会
各課題別プロジェクト会議の進捗状況報告について

1 災害対応プロジェクト会議

(1) メンバー

牧田施設長（多摩川の里）、平本施設長（すえなが）、見原施設長（ビオラ川崎）

(2) 会議等

日 時： 月 日（ ） 時～

会 場：

内 容：

2 人材確保対応プロジェクト会議

(1) メンバー

古敷谷施設長（大師の里）、岩壁副施設長（等々力） ※磯野会長担当プロジェクト

(2) 会議等

日 時：9月30日（木）10時～

会 場：神奈川県社会福祉会館

内 容：①委員長の選出について

②第5回プロジェクト会議の振り返りについて

③情報発信と魅力発信に向けた取り組みの全体像について

④今後の検討課題について

3 介護報酬改定対応プロジェクト会議

(1) メンバー

清水施設長（夢見ヶ崎）、白井施設長（富士見プラザ）

(2) 会議等

日 時：10月22日（金）午前10時～

会 場：神奈川県社会福祉会館

内 容：

3 神社協福第 397 号

令和 3 年 9 月 6 日

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会
施設部会老人福祉施設協議会 会長 殿

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会
老人福祉施設協議会 会長 鈴木 啓正

第 20 回かながわ高齢者福祉研究大会実行委員の選出について（依頼）

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

去る 6 月 30 日から 7 月 31 日まで開催いたしました「第 56 回関東ブロック老人福祉施設研究総会・第 19 回かながわ高齢者福祉研究大会合同大会」におきましては、貴会より多大なるご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび、標記大会の開催に向けて、新たに実行委員会を組織することとなりました。

つきましては、貴会より実行委員会委員の選出をいただきたく、ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、別紙にてご回答くださいますようお願い申し上げます。

1. 選出人数 7 名

2. 回答期限 令和 3 年 10 月 15 日（金）

3. 選出にあたっての留意点

- (1) 県老施協委員会との連動を図るため、推薦者のうち 1 名は県老施協委員を選出してください。
ただし、選出人数の中に各団体の会長・事務局は含みません。
- (2) 各団体との協力・周知体制を構築するため、推薦者のうち 3 名は施設長を選出してください。
- (3) 大会の継続性を図るため、推薦者のうち 3 名以上を実行委員経験者から選出してください。
- (4) 選出者は本会老人福祉施設協議会会員もしくは入会予定施設に所属する方に限ります。
- (5) 今般の状況を踏まえ、実行委員会を小規模開催とする場合がございます。その際は、係ごとに、各ブロックから 1 名ずつご出席頂くことといたしますので、予め代表出席者を決定下さいますようお願いいたします。

※推薦者につきましては、各係の活動内容を踏まえ、ご検討ください。（参考別紙）

4. 第 1 回実行委員会の開催について

次の開催日につきまして、委員候補者へご周知くださいますようお願いいたします。

- ・ 第 1 回実行委員会 10 月 26 日（火）午後 3 時～4 時 30 分

※会場は「ホテル横浜キャメロットジャパン」を予定。

〔 事務担当は、
社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会福祉サービス推進部／加藤
TEL 045-534-5662 FAX 045-312-6302 E-mail sisetu@knsyk.jp 〕

第 20 回かながわ高齢者福祉研究大会 実行委員会委員の選出について

令和 4 年度第 20 回かながわ高齢者福祉研究大会の開催に向けて、各ブロック及び養成校より実行委員会委員選出の依頼を行う。

1. 選出人数 30 名

〈係別・ブロック別選出人数のめやす〉

| | 総数 | 全体統括 | 研究発表 | 介護技術 | 施設/企業 | 大会運営 |
|-----|----|------|------|------|-------|------|
| 県 | 7 | (1) | 3 | 2 | 1 | ① |
| 横浜 | 7 | (1) | ③ | 2 | 1 | 1 |
| 川崎 | 7 | (1) | 3 | ② | 1 | 1 |
| 相模原 | 8 | ①(2) | 3 | 2 | ① | 1 |
| 介護協 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 計 | 30 | 1(5) | 12 | 8 | 5 | 4 |

※1 太枠囲みは幹事ブロック

※2 ○付数字は、副実行委員長（各係の統括責任者、全体統括担当）を含みます。

※3 委員推薦の結果、委員経験者数に偏りがある等の場合にはブロック別内訳数を変更して調整をお願いする場合があります。

※4 各係の企画・運営に必要なアドバイザーや係員については、第 56 回関東ブロック老人福祉研究総会・第 19 回かながわ高齢研究大会合同大会実行委員会での協議を踏まえて適宜調整します。

(参考) 第 19 回大会依頼状況 ()内は第 18 回大会より参考

| | 総数 | 実行委員 | 審査員 | 係員 (ブロック) | 係員 (委員施設) |
|-----|----|------|-----|--------------|--------------|
| 県 | 14 | 10 | 4 | 0(8) | 0(5) |
| 横浜 | 18 | 14 | 4 | 0(8) | 0(7) |
| 川崎 | 13 | 10 | 3 | 0(6) | 0(5) |
| 相模原 | 12 | 9 | 3 | 0(6) | 0(2) |
| 介護協 | 8 | 1 | 7 | 0(0) | 0(0) |
| 計 | 65 | 44 | 21 | 0(28) | 0(19) |

2. 委員任期 令和 3 年 10 月 1 日～令和 4 年 10 月 30 日

※第 1 回実行委員会開催月より

3. 選出にあたっての留意点

- (1) 県老施協委員会との連動を図るため、推薦者のうち 1 名は県老施協委員を選出する。
ただし、選出人数の中に各団体の会長・事務局は含まない。
- (2) 各団体との協力・周知体制を構築するため、推薦者のうち 3 名は施設長を選出する。
- (3) 大会の継続性を図るため、推薦者のうち 3 名以上を実行委員経験者から選出する。
- (4) 選出者は本会老人福祉施設協議会会員もしくは入会予定施設に所属する者に限る。
- (5) 実行委員会を小規模開催とする場合に、係ごとに、各ブロックから 1 名ずつご出席頂く、代表出席者を予め決定下さいますようお願いいたします。

※各係に期待される役割・活動内容をご理解の上、推薦者についてご検討ください。

| 担当係 | 主な役割（第18回大会実行委員、第19回合同大会実行委員の動きから） |
|-----------|--|
| 全体統括 | <ul style="list-style-type: none"> ○全体の進行管理 ○副実行委員長（各係の統括責任者）との連絡・調整 ○招待者・視察希望者・報道機関等への対応 等 ○開催周知に関する関係機関との連絡・調整 ※実行委員長、副実行委員長、県老協正副会長・顧問相談役で構成 |
| 研究発表 | <ul style="list-style-type: none"> ○研究発表テーマ、発表・審査方法、コンプライアンス等の企画検討 ○研究発表者事前説明会・研修会の企画開催（第19回は動画配信） ○動画作成にあたってのガイドライン等の検討、事前の動画確認の実施 |
| 介護技術発表 | <ul style="list-style-type: none"> ○発表題・利用者モデル・発表課題・評価項目・評価者等の企画検討 ○介護技術発表者事前説明会の企画開催（第19回は開催なし） ○動画作成にあたってのガイドライン等の検討、撮影会の運営、事前動画確認の実施 |
| 施設紹介・企業協賛 | <ul style="list-style-type: none"> ○施設紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・「施設紹介コーナー」の企画検討 ・求職者への広報周知（ハローワーク、学校関係者等との調整） ○企業協賛 <ul style="list-style-type: none"> ・「協賛企業広告」の企画検討 ・関係企業への広報周知 ○法人・企業協賛広告の掲載方法の検討、募集要項の検討 |
| 大会運営 | <ul style="list-style-type: none"> ○大会テーマの検討 ○広報物（ポスター、要綱、ホームページ）の企画作成 ○大会配信ページの構成等、配信全般に関する検討 |

4. 実行委員会の開催予定（別紙：年間スケジュール）

○第1回実行委員会

日時 令和3年10月26日（火）午後3時から4時30分
 場所 ホテル横浜キャメロットジャパン
 内容 役決め、大会企画・予算・年間スケジュールの確認、
 係別打合せ

第20回かながわ高齢者福祉研究大会の実行委員選出について

1 選出範囲

市社協会員施設（47施設）

2 選出方法

- ①実行委員は半数ずつ2年交代
- ②実行委員には県老協協委員を1名選出
- ③実行委員には施設長の選出が望ましい
- ④実行委員は施設単位で依頼（委員に異動があった場合には施設内後任者が継続）
- ⑤実行委員の半数程度は経験者を選出
- ⑥当日係員は実行委員にカウントしない
- ⑦**実行委員は施設名五十音順に依頼（特別養護老人ホーム等の部分を除いた名称）**

※ただし、直近3大会で実行委員を選出した施設は除く

※①～⑥については、県社協からの選出依頼にあたっての選出方法

⑦については、平成30年度第3回施設長会にて承認して頂いた選出方法

（第19回合同大会）

| | | | | | | | | | | |
|--------------|------------|-----|-----|--------|--------------------------------------|------|---------------------------|----------|------|------------|
| 潮見台 みどりの丘 | 金井原 苑 | 恒春園 | しおん | しゃんぐりら | 片平長 寿の里 ※途中 から 多摩川 の里 | こむかい | むくがわら ※年度 途中で 辞退 | 新緑の 郷 | すえなが | 富士見 プラザ |
| 県老協 協委員 | 第18回大会より継続 | | | | 第19回大会より選出 | | | | | |



（第20回大会）

| | | | | | | |
|-----------|------------|------|------|--------|------------|------|
| 多摩川の里 | こむかい | すえなが | 新緑の郷 | 富士見プラザ | 菅の里 | すみよし |
| 県老協 委員 | 第19回大会より継続 | | | | 第20回大会より選出 | |

第20回かながわ高齢者福祉研究大会 実行委員会委員の選出について【回答】

標記実行委員について次のとおり推薦いたします。

団体名：社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会

| | 氏名 | 所属施設名 | 職名 | 実行委員会小規模開催時の 代表出席者に○ | 備考 |
|---|--------|--------|------------|-------------------------|-----------|
| 1 | 牧田 正之 | 多摩川の里 | 施設長 | ○ | 介護技術発表 |
| 2 | 己斐 聡美 | こむかい | 施設長 | | 研究発表 |
| 3 | 小林 秀夫 | 新緑の郷 | 施設長 | ○ | 研究発表 |
| 4 | 平本 正志 | すえなが | 施設長 | | 介護技術発表 |
| 5 | 白井 裕一 | 富士見プラザ | 施設長 | ○ | 施設紹介・企業協賛 |
| 6 | 植田 裕央 | すみよし | 相談員 | | 研究発表 |
| 7 | 藤谷 敬一郎 | 菅の里 | 入所介護 課長 | ○ | 大会運営 |